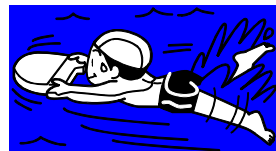


大塚小だより

夏休み号



学校ホームページ / <http://www.ohzuka-e.edu.city.hiroshima.jp>

いのちのかがやき

今年もまた、ヒロシマの夏がやってきます。63年前の被爆体験の確かな継承と世界恒久平和の実現に貢献する意欲や態度を育成するために、さまざまな取組をすすめています。

毎年、広島市の平和記念式典では、子ども代表による「平和の誓い」が読み上げられます。これは、事前に平和の大切さをテーマにした、市内の小学6年生から応募された意見作文をもとに選ばれた子ども代表20名の手によって練られ作成されていきます。今年はその代表の一人として、本校の坂田 真子さんがかかわっています。

また、全校児童で平和への祈りをこめて一人一羽ずつ折った折り鶴を、計画委員会の児童が慰霊祭に参加し献納します。映像や読み物だけではなく、地域の被爆体験継承者をお招きして原爆の悲惨さ、いのちの尊さ、平和の大切さについても学びます。8月6日は全校登校日とし「ヒロシマの集い」を行います。その夜は、6年生が親子で制作したピースキャンドルの灯が、鎮魂と祈りをこめて原爆ドーム周辺を彩ることでしょう。

いのちは、すべての生き物がもつ大切なものです。アサガオやミニトマトなどの植物、アリやテントウムシなどの小さな昆虫にも大切ないのちが輝いています。子どもたちも一生懸命何かに取り組んだり、友だちと仲良く遊んだりしながらいのちを輝かせています。まちがっても、心や体が傷ついているいのちの輝きにかげりを見せたり、いのちの輝きをなくしたりすることがあってはなりません。

平和学習を通して、子どもたちが一人一人のいのちを輝かせながらいつまでも平和で過ごせるように、身近なところから自分たちの生活を見つめる目と、考え実行する芽をしっかり育んでほしいものです。

春は花	夏ほととぎす	秋は月
冬雪冴えて	冷 (すず)	しかりけり

川端康成がノーベル文学賞授賞式の講演で引用した、道元禅師の「本来の面目」という歌です。春は春そのもの、夏は夏そのもののありようの中にこそ夏本来の面目がある。秋も、冬もまた同じであるという意味の歌です。

小学生の時だからこそできることや大切にしたいこと、いろいろあると思います。ぜひこの夏休みを機会に、お子様の考えを尊重しながらさまざまなことにチャレンジさせる余裕をもちたいものです。

あれこれ口を出さず、でも見ていないようでそっと見守ってくれていた、そんな思い出はありませんか。子どもの「心」を「受」けとめる『愛』にあふれ、「木の上に立って見る」という『親』本来の面目を今一度見つめ直してみませんか。

「夏休み セミよりうるさい 母の声」
お互いに心して、楽しい夏休みとしたいものです。

学校のホームページをのぞいてみてください。教育活動の情報が満載です。下記アドレス <http://www.ohzuka-e.edu.city.hiroshima.jp> よりどうぞお待ちしております。